

平成21年度第3回木更津市史編集委員会 会議録

1. 会議名 平成21年度第3回木更津市史編集委員会
2. 開催日時 平成21年12月14日(月)午後1時30分～午後4時15分
3. 開催場所 市立図書館 2階会議室
4. 出席者 市史編集委員会委員 出席8名(栢山委員・藤平委員欠席)
橋田昭雄委員長、三浦茂一副委員長、實形裕介副委員長、高崎繁雄委員、
金子馨委員、野中徹委員、須田昭平委員、永野昭委員
(自然班構成等説明者－成田調査研究員)
教育委員会事務局6名
初谷教育長、栗原教育部長、能城文化課長、半澤主幹、戸倉副主幹、石川主査
5. 議題及び公開又は非公開の別
議題1 編集方針(案)の一部修正について(公開)
議題2 (仮称) 図説『木更津のあゆみ』の編集について(公開)
 - ① 班構成及び編集委員の所属班の一部変更について
 - ② 内容、構成等について
 - ③ 体裁についてその他 ・ボランティア登録状況について(公開)
 - ・今後の日程について(公開)
 - ・班会議、調査研究委(執筆)活動の事務手続きについて(非公開の理由)
6. 傍聴人 なし。

事務局(半澤主幹) 平成21年度第3回木更津市史編集委員会を開会いたします。

本日の市史編集委員会は、栢山委員、藤平委員より都合により欠席の連絡がありましたので報告します。

なお、附属機関設置条例第6条第2項の規定により、委員の過半数の出席により本会議は成立しております。また、会議は公開でございますので、会議録作成のため録音をさせていただきますのでご了承下さい。

それから、本日、藤平委員は都合で欠席でございますが、自然班の編集内容の説明のため、班のメンバーである成田さんに同席をいただいておりますので、ご了承ください。

事務局(半澤主幹) それでは、はじめに初谷教育長よりご挨拶申し上げます。

教育長 (初谷教育長挨拶)

事務局（半澤主幹） 次に橘田委員長よりご挨拶をいただきたいと存じます。

橘田委員長 （橘田委員長挨拶）

事務局(半澤主幹) ありがとうございます。それでは、議長は委員長にお願いする規定となっておりますので、橘田委員長に議長をお願いいたします。

橘田委員長 議長を務めさせていただきます、宜しくお願いいたします。

それでは、議事に入らせていただきます。

議題1 編集方針（案）の一部修正について事務局より説明願います。

事務局（能城課長） （編集方針の一部の修正した箇所の説明）

【名称について】

仮説図説『きさらづのあゆみ』の“きさらづ”を“木更津”へ修正する。

【「4. 市史の内容、構成について」】

5～6行目の文章を変更（資料2ページ）

“～記憶に新しい昭和、特に昭和47年以降を**中心**に編集し、～”

↓

“記憶に新しい昭和、特に昭和47年以降を**加えて**編集し～、”

14行目の文書を変更（資料2ページ）

“～昭和47年以降を**中心**に資料の～”

↓

“～昭和47年以降を**加え、またそれ以前の**資料の～”

【「本編の構成と主な内容」「資料編の構成と主な内容」（資料3ページ）】

上記の表を削除し、「4. 市史の内容、構成について」（3ページ）に文章にして、本文の中に組み入れる。

橘田委員長 只今、事務局より編集方針（案）の一部修正について説明がございました。

委員の皆さん、ご意見等ございますか。

ご意見ないようですので、本修正案をご了承いただいたものとします。

（委員全員承認）

橘田委員長 次に議題2の（仮称）図説『木更津のあゆみ』の編集について審議に入ります。

まず、事務局より班構成及び編集委員の所属班の一部変更についてご説明願います。

事務局（能城課長） これまで、各班の活動が始まっておりますが、実際に班の中で動き始めますと、それぞれの時代ごとに独立して活動している現状でございます。

そのため、実態に沿うように「中世班」「近世班」「自然班」「民俗班」と分け、4班体制から6班体制に修正し、また、この班構成に伴いまして、委員の方の所属班につきましても修正してございます。資料の「木更津市史編集調査研究・執筆者名簿」をご確認ください。

なお、高崎委員につきましては、「近現代班」でございますが、民俗班の方からもぜひ、調査研究・執筆をお願いしたいという要望があり、「民俗班」と兼務でお願いしたいと思います。

橘田委員長 事務局から「班構成及び編集委員の所属班の一部変更について」の説明がありました。委員の皆さん、何かこれに対し、ご意見ございますか。

（全委員、承認）

橘田委員長 それでは、4班から6班へ修正し、それに伴い班員の公構成も変更となりました。高崎先生は、「近現代」と「民俗班」と兼務となりますが、どうぞ、よろしく願います。

橘田委員長 次に議題2-2「内容、構成等について」に入っております。
では、これから各班からの構成内容等について、原始古代班から順にご説明願います。

事務局（戸倉副主幹） （「原始古代班」についての説明・・・資料②別紙1参照）

事務局（戸倉副主幹） 執筆者について補足させていただきますが、執筆担当の方は、原始につきましては金子委員、相山委員をはじめ11名の市職員が担当します。

また、古代については、國學院大学の笹生先生、元市原市埋蔵文化財センター職員の宮本敬一氏が担当します。

橘田委員長 「原始古代」について、事務局から説明がありました。原始古代で与えられた頁数は50ページでしたが、10ページを超えてしまったということ、この点について何かご質問、ご意見ございませんか。

實形副委員長 原始古代は、現在、何項目あるのでしょうか。ざっと数えてみると約54項目ありますが、50ページの割り当てに対して項目が多すぎるのではないのでしょうか。

1項目、1ページとか0.5ページといった構成ではなく、項目をもう一度厳選していただき、原則である1項目2ページといった構成に修正していただきたいです。ですから、項目数を25～30項目くらいに統合すれば丁度良いです。

金子委員 確認ですが、原則、1項目見開きというスタイルで、2の倍数ページで掲載するのですよね。

ただ、項目によっては見開き2ページにならない場合もあるのではないのでしょうか。その際は、1項目1ページや0.5ページで完結していれば良いのではないのでしょうか。特に読み辛さは感じないと思います。

實形副委員長 はい。どうしても2ページ書けない項目も出てくる可能性があります、それはそれで、例外として掲載しても良いと思います。

しかし、はじめから0.5ページや1ページを想定して、構成してしまうことはやらないで欲しいのです。最終的な微調整としてなら、止むを得ないですが、はじめから構成されてしまうと、本の全体の統一感がなくなってしまいます。読みづらく、見づらくなってしまう原因になります。

事務局（戸倉副主幹） はい、分かりました。確認しますが、原始古代の概説も含めて50ページ以内にするのでしょうか。

また、原始2ページ、古代2ページではなく、原始古代で2ページにまとめて掲載するのでしょうか。

實形副委員長 中世、近世、近現代は、各2ページで概説を書く予定ですから、原始古代についても2ページです。概説を含めて50ページ以内になるように修正願います。

金子委員 概説は、各時代（6分類）2ページで掲載するのですよね。前回の編集委員会で提案された全体のページ数から概要部分12ページが増えます。それに伴い各時代、概説ページ2ページ分を減らして、再度構成しなければならないということですね。

橘田委員長 はい。そういうことです。限られたページ数ですので、他の時代同様、原始古代についても概要を2ページにまとめて掲載願います。

野中委員 しかし、実際のところ「原始古代」をまとめて概説するということは、大変難しいのではないのでしょうか。せめて、原始で2ページ、古代で2ページ、合わせて4ページくらいは必要ではないのでしょうか。事務局その点は大丈夫ですか。

事務局（戸倉副主幹） はい。できましたら、野中委員がおっしゃるように原始古代で2ページずつ、

概説部分で4ページいただきたいところですが、現在、各時代でページ数が若干オーバーしている状況ですので、原始古代で2ページにしたいと思います。

三浦副委員長　これは、例えばですが、原始1ページ、古代1ページとそれぞれまとめてはいかがでしょうか。

やはり、原始古代の概要をまとめようとするとかなり難しいと私も思いますので、原始、古代とそれぞれまとめるという方が、まとめやすいのではないのでしょうか。

これは、私の担当する近現代班でも、「近代」「現代」と分けて掲載しようかと考えています。

それから、概説の場合は、どの時代でも共通することですが、なるべく図は少なくして、文章を多くれるようにした方がいいですね。

事務局（戸倉副主幹）　はい。それぞれ、各1ページにまとめるのも可能だと思いますので、今後、原始古代班の中で検討していきたいと思います。

金子委員　お聞きしたいのですが概説を書く場合、1ページの体裁は、どのようなでしたか。大体、何文字くらいなのでしょう。確か、前回の編集委員会で事務局から提案されたと思いますが、確認させてください。

事務局（石川）　前回の編集委員会の際、体裁については、30文字23行縦書き2段組で文字の大きさは、11ポイントとご提案してございます。総文字数は、1,380文字となっております。

金子委員　原稿用紙3枚半くらいですね。わかりました。

橘田委員長　その他にご質問、ご意見等はございませんでしょうか。

永野委員　原始時代の項目を見ると、カタカナ表記が多いのですが、これは何かルールがあって敢えてカタカナ表記をしているのでしょうか。

「ハンター」「マツリのアイテム」など、今の小学生が読むと分かりやすいのかもしれませんが、あまりにもカタカナ表記が目立ち、若干項目に違和感を感じます。

橘田委員長　例えば、「ムラ」という言葉は、漢字やひらがなではなく、カタカナ表記が一般的ですが、他の時代の項目と比べると永野委員のご指摘どおり統一感がなくなります。

事務局（戸倉副主幹）　原始古代である考古学の分野では、専門用語が多いため文章表現が難しくなりがちです。そのため、一般市民の方でも親しみやすく、分かりやすい文章表現と

いう点を顧慮し、なるべく専門用語は使用せず、カタカナ表記を使用しました。

野中委員 確かに、考古学の専門用語は、読みにくい、難しい漢字を使用しておりますので、分かりやすい表現にすることは必要です。
ですから、カタカナを無闇やたらに乱用しないように注意しながら、適材適所でカタカナ表記をすればよろしいのではないのでしょうか。

金子委員 やはり、日本の歴史を書くわけですから、なるべく外国語を使用しないように、適切な国語を使用し、市史を編集する際このような教育的配慮をすることも大切なのではないのでしょうか。
例えば、「ハンター」は「狩人」で十分理解できます。もし、読みにくい漢字については、「ルビ」をふったり、用語解説などすれば良いことです。

須田委員 カタカナ表記も私も気になりますが、それに加え原始古代班の各テーマは、修飾語が多く使用されていることも気になります。
例えば、「きらめく」「ずらり」「華麗なる鎧」「子連れの勾玉」などの言葉使いです。他の時代のテーマと全く統一性がないので、バランスを考えてテーマ名を整理した方がいいですね。

永野委員 確かに、奈良平安時代と原始古代のテーマは、トーンが明らかに違いますね。原始古代の方は、現代風というか。写真に付けるキャプションのようで、私も気になりました。

事務局（戸倉） はい。わかりました。他の時代と統一のとれたテーマ表記など、ご指摘いただきました点を整理し、改めてテーマを再検討します。

實形委員 補足ですがテーマを再検討する際は、単語にしないようにしてください。単語にするとどうしても修飾しなければならなくなりますので、もう少しイメージできるようなテーマを考えていただければ、他の時代と統一感のあるテーマになると思います。

橘田委員長 それでは、次に「中世班」の内容、構成等について、戸倉副主幹ご説明願います。

事務局（戸倉） （戸倉副主幹より「中世班」についての説明・・・資料②2ページ参照）

事務局（戸倉副主幹） それから補足ですが、各項目の中で、「頼朝伝承」、また「中世木更津の信仰」、熊野信仰と富士信仰については民俗班と少々重なってしまいますので、民俗班と調

整が必要となります。

ただ「木更津の信仰」熊野信仰と富士信仰については、中世の時期に絞った見解なので民俗班とはすり合わせをしまして、重複しないように取り上げる意向です。

全体のページ数は38ページとなり、概説2ページ分を除けば6ページオーバーになっております。

實形委員 オーバーした分は、3項目分をまとめるなり、削除するなりできると6ページ減らせませんか。

橘田委員長 熊野信仰、富士信仰など民俗班と重なる部分がありますが、野中先生いかがでしょうか。どのようにすり合わせをしていただけますか。

野中委員 「頼朝伝説」については、中世班の方で取り上げていただいた方がよろしいでしょう。信仰については、地引研究員が担当しておりますので持ち帰ってどのようにすり合わせをするか検討します。

橘田委員長 どの時代も増える傾向にありますから、中世班についても6ページ分を減らす方向で、項目を再検討し、民俗班と重なる部分についてもすり合わせをしてください。

事務局（戸倉副主幹） この編集委員会での意見を中世班の先生方へ伝え、項目、ページ数の再検討し、どのように民俗班とすり合わせたら良いかご相談いたします。

橘田委員 ほかに中世に関して、委員のみなさんご意見はございませんか。

高崎先生 中世の項目に「木更津の地名の由来」がありますが、表記の「木更津」でしたら分かりますが、しかし「木更津」とはもともとはどのような地名が元となっているのか。「木更津」という地名より「望陀」の地名の方が古く、これは防人の歌に詠まれています。

また、奈良県の御所市には蛇穴町という地名が現在でも残っており、「へびあな」と書いて「さらぎ」と読みます。なかなか千葉県の人には読めませんね。

昭和3年頃に発表された『大和史』第3号（大和史学会）という雑誌の中で、「蛇穴考」という論文があり、この地名の由来について書かれております。

これは、奈良県立図書館長も就任された野村伝四という方が書いたもので、この中では、「蛇穴」と「望陀」は関係があると書かれております。ですから、この木更津の地名の由来を書くには、「望陀」の由来について研究する必要があります。

この文献は、復刻版が袖ヶ浦市郷土博物館の図書室にありますから、参考資料にしてください。

それから、熊野信仰と富士信仰についてですが、富士山の頂上から文明14年銘の「懸け仏」が出ています。8面のうち2面あるので、恐らく8つ作って2面を山頂に埋納したのでしょうね。木更津から富士山の山頂まで運んだのです。しかも、懸け仏を木更津で作っていることがわかります。現物は、今でも現地にありますので、こういった事実を焦点に置く必要があります。富士信仰を書くには、懸け仏が出たことを念頭に置いて書く必要があります。

また、熊野信仰については、「鈴木家」が重要です。下郡の鈴木さんのところの墓碑をみると紀州の藤代から来たということが書かれております。ほぼ鈴木さんを辿っていくと鈴木家へつながります。烏田の奥へ行けば鈴木家が多く、烏田の草分け的な人々ですね。さらに、烏田には熊野神社があります。こういったところに焦点を置き、書くべきではないでしょうか。

橘田委員長 高崎先生、貴重なご指摘ありがとうございました。事務局の方で、高崎先生からご指摘の点を考慮して、中世班、民俗班の調整、編集をお願いします。
では、次に近世の説明を實形委員お願いします。

實形委員 近世の方は、概説部分は、冒頭2ページとして考え構成案を上げています。
前回の編集委員会で指摘された小林一茶、広重、北斎、与三郎などの文化的な史実を組み込んだ内容構成に変更してあります。全体で20項目となり、細かい微調整はこれから班会議を行い、検討していきます。大体4つぐらいのグルーピングに分け、5人の執筆者で、1人4項目くらい執筆を担当するようなイメージを考えています。

橘田委員長 只今、近世のご説明がありました。何かご質問ご意見等はございますか。

實形委員 民俗班と「木更津船」が重複していますね。近世の方では、歴史的な叙述になります。写真などの掲載については、民俗と同じものにならないように調整していきます。

橘田委員長 野中委員なにか、これについていかがでしょうか。

野中委員 はい。近世班の方と調整しながら、民俗班で内容、テーマ等を再検討します。

橘田委員長 他にご意見ありますか。

事務局（能城課長） 實形委員にお伺いしますが、近世のページ割りですが、多少余裕があるので、例えば、中世班の方へページを分けることは可能でしょうか。

實形委員 今のところ、1つの項目に対して、詳しく取り上げて4ページで書きたいものが5

項目ありますので、ページに余裕はありません。

事務局（能城課長） はい。分かりました。

橘田委員長 では、次に近現代班のご説明を三浦委員お願いします。

三浦委員 近現代班では、その時代を生きた人々の様子、生活などが中心となりますので、その市民の身近な史実を考慮し、項目選びをしたところ、現在42項目ございます。1項目2ページと考えておりますので、総ページ数は84ページ、これに近現代の概説を2ページ加えますので、86ページとなります。

これまで、編集委員会で決められた近現代の割り当てページ数は、80ページですので、6ページオーバーしております。

しかし、これは、編集委員の皆さんのご意見も聞きたいと考え、班会議で出された項目をすべて取り上げてあります。

この編集委員会でのご意見を踏まえ、来月もう一度班会議を行い、改めて項目立ての精査を行います。その際は、なるべく割り当て数の80ページ内に納めたいと考えています。

また、原稿執筆を進めていくと、領域的な専門性が必要となりますので、現在いる調査研究員5名に加え、漁業史の森脇さん、医療史・衛生史の中澤さんをお願いしたいと思います。この方たちは、千葉県史編さんでも執筆なさった方で業績も認められております。ですから、事務局方で早急にご依頼をお願いしていただければと思います。

橘田委員長 はい。近世班のご説明がありました。
調査研究員を2名増やしたいとの要望ですが、事務局、増員は大丈夫ですか。

事務局（能城課長） はい。県史編さんでの実績もある方々でもありますので、大丈夫です。
至急、依頼の手続きを行います。

橘田委員長 それでは、委員のみなさん、この他にご意見等はございますか。

永野委員 近現代では、大正、明治、昭和、平成と時代がありますが、この中で大正時代は15年しかなく、とても短いですが、この時代の長さによって、項目出しの数を考えているのでしょうか。

三浦委員 各時代の割合も考えて、項目出しをしておりましたが、やはり大正期は短いため、現在の項目の中で、大正期は少なくなっております。

今後、班会議にて各時代での史実に漏れがないか再検討し、各時代の項目出しの割合にも偏りのないようしていきます。なるべく女性史なども盛り込んでみたいと思います。

實形委員 編集方針の目的の中で、「昭和47年を加えて・・・」というものがありますが、この項目の中では、どのくらいでしょうか。

三浦委員 そうですね。最後の2項目くらいですね。

實形委員 再検討する際、「昭和47年以降」の史実についても、もう少し取り入れてみてはいかがでしょうか。あと2項目くらいはあった方がよろしいかと思います。

永野委員 昭和47年以降、木更津には、教育施設が非常に多くできております。これは、昭和47年以降、木更津市の人口の増加に合わせて、高校や大学などが作られております。このことは、特筆すべき史実だと思います。

三浦委員 はい。わかりました。例えば、最後に「木更津市の現在」などいった項目を入れて、掲載する方法や、市勢要覧のようなものになってしまう可能性もありますね。
いずれにせよ、この会議で頂戴したご意見をすべて、班へ持ち帰り項目立てを精査、再検討してまいります。

橘田委員長 他に何かご意見等ございますか。それでは、ないようですので、次の民俗班のご説明を事務局戸倉副主幹、お願いします。

事務局（戸倉副主幹） 民俗の構成内容、項目の説明の前にご報告がございます。
前回の編集委員会後に、県立中央博物館の地引尚幸氏と入江英弥氏の2名の方に調査研究員をお引き受けいただきました。今後、あと1名ほど依頼する予定です。
では、民俗の項目立てですが、資料②の5ページのとおり、10項目22ページ、概説を入れて24ページです。
近現代や近世などと重なる項目について、摺り合わせをして項目を再度、調整していきます。

橘田委員長 民俗班の説明がありましたら、ご質問、ご意見がございますか。

高崎委員 1の「木更津のマチ」とありますが、これは、お祭りのことですね。この「マチ」というのは、方言ですので、「木更津の祭礼（マチ）」とした方が、よろしいですね。

それから、「木更津」とはどこをもって「木更津」とするのか。普通、我々は「木更津の町」というと「旧木更津」を指します。ですから、この点をきちんと整理して書かれた方が良いでしょう。

- 野中委員 はい。私も「木更津」については、まとめ方が難しいと思っています。対象の範囲をどのようにするかで、この「木更津」という地名の指すところが、異なってきますので、この点をご指摘のとおり注意して取り扱います。
- 須田委員 民俗の項目には、「木更津の〇〇」というのが目立ちますが、この「木更津」というのは、項目に入れなくてもよろしいのではないのでしょうか。
- 野中委員 そですね。確かに、項目を見ると「木更津」を入れなくても良いものがありますね。今後、班会議で精査していきます。
- 橘田委員 それでは、他にご意見ありませんか。
ないようですので、自然班のご説明を成田さんお願いします。
- 成田調査員 本日、藤平先生が所要で出席できないということですので、私が代理で、自然班のご説明をさせていただきます。
先日行いました自然班の会議で、まとまったことですが、自然班の場合、「自然編」と独立の記述にせずに、原始古代や現代などへ、それぞれの時代の中に自然の記述を組み入れることは、できないか。という意見にまとまりましたので、ご提案させていただきます。
掲載の内容的には、森林、植生、関東ローム層などその時代に位置づけ、時代時代に自然の記述を組み入れていくというイメージです。この意見が、認められましたら、今後、さらに詳細な自然班の項目を決めていきたいと考えております。ページ数につきましても、自然班の割り当て数20ページの中に納める予定です。
以上の件、ご検討願います。
- 橘田委員長 只今、自然班からのご提案がありました。いかがでしょうか。
各班でのご質問、ご意見等はございませんか。
- 野中委員 「木更津の自然」というのが概説的なものは、掲載しないのでしょうか。
- 金子委員 そうですね。「自然」の概説があった方が良いでしょう。
例えば、「縄文時代の気候」という記述であれば、コラム的に掲載したりして、詳しく説明すれば良いのではないのでしょうか。分かりやすい記述した自然の特徴、

概要は、必要だと思います。

實形委員

自然班だけ、構成が変わってしまうことになります。それだと、読み辛くなってしまいます。第一に、この本から自然の記述が隠れてしまうことになります。自然は、全史的に係わることだから、各時代の中で記述しようという考えもわかるのですが、木更津の自然に興味を持った人は、どこから読んでいいのか分からなくなります。

事務局の作成した資料では、自然編が一番最後に取り扱われていますが、私の提案した目次では、自然は最初に掲載されております。これは、全史に通じることなので、自然編を一番はじめに持ってきたのです。

自然の話から入って、各時代の説明、最後に民俗の話という本の構成が、一番読みやすい流れだと考えます。自然はすべての時代の導入だと考えれば、スムーズな構成になります。

野中委員

そうです。各時代に「自然」が埋もれてしまうことは、パッとしか見ない人だと、分かりにくく、自然の掲載がないと思われてしまうかもしれません。

實形委員

自然のところが、インパクトあるように面白くまとめていただければと思います。内容の構成については、このご提案していただいた項目でよろしいと思いますので、その他、各時代で特筆すべき自然の記述があれば、情報提供等を行い、時代の概説部分やコラムにて掲載する方法もあると思います。

橘田委員長

各委員から木更津の自然の特徴をまとめた概説は、必要だ。各時代の中へ自然の記述を組み込むことは、困難ではないだろうか。各時代の中で記述すると「自然」の記述が埋もれてしまうのでは。などのご意見ができました。成田さん、いかがでしょうか。

成田調査員

私は、この場で答えを出すことができませんので、本日のご意見を自然班の方で、早速、ご報告させていただきます。自然班の結論については、次回の編集委員会で改めて藤平先生からご回答することになります。

橘田委員長

では、自然班では持ち帰っていただき再検討願います。

それでは、原始古代班から自然班までご説明いただきましたが、全体的に通しまして、何かご意見ないでしょうか。

各班へここでの指摘事項を持ち帰っていただき、再検討いただくこととなりますのでよろしく願います。事務局からは、何かありますか。

事務局（能城課長） 今年度中に目次立てをすべて決定し、また執筆者の方も固めたいというのが当初からの目標でございますので、なんとか、3月までに決定できるようにしたいと考えております。

今日、はじめて各班からの項目が揃ってまいり、その結果、過渡期等につきましては調整が必要なところが出てきましたので、この後、各班会議を開いていただき、再度検討していただきます。また、場合によっては、各班の代表者に集まっておいただき、重なる部分やページ数など全体的に調整して決めていきたいと思っております。その後、第4回編集委員会を開き、項目、執筆者を決定できればと考えております。

橘田委員長 それでは、次に議題2の4体裁について、事務局の方からご説明をお願いします。

事務局 （石川より「体裁について」の説明）

橘田委員長 体裁についてのご説明がありました。何かご意見ございませんでしょうか。

實形副委員 縦書き3段組みですと、1ページ何文字になりますか。

事務局（石川） 20行×19文字で文字数は、1,140文字です。

實形委員 もう少し、文字数を入れたいですね。参考資料の小川町は、1,330文字程度です。少なくとも3段組みにして1,200文字になるサンプルを次回の役員会までに作ってみてください。

事務局（石川） はい。縦書き3段組、11ポイント、1,200文字のサンプルを作成し、次回の役員会にて一度、ご検討していただき、第4回の編集委員会にてご提案いたします。

橘田委員長 では、よろしく申し上げます。

次に。その他のボランティア登録状況について、事務局の方からご説明願います。

事務局（石川） 10月から募集を開始し、現在、10名の登録申込みがございます。最低、各地区1ずつボランティアをしていただける方を集めたいのですが、まだ長須賀地区、請西地区、富来田地区、真里谷地区でボランティアの申し込みがありません。

今後の予定としては、来年2月頃にボランティアの方に集まっておいただき、取り組み方、活動内容等を説明し、本格的に資料の情報提供や聞き取り調査の記録補助、収集資料の整理などの協力していただく予定です。

それから、今後も更にボランティアの人数を増やしたいので、委員の皆さままで市史

編集事業にご協力いただける方がおりましたら、ぜひ、ご紹介願います。

- 橘田委員長 事務局からボランティアの登録状況のご説明がありました。
これからも、協力していただけるボランティアを増やしたいということですが、何か、ご紹介いただける方はいらっしゃいますか。
- 須田委員 市内の公民館の歴史サークル等には、周知しているのでしょうか？
チラシを配布するだけでなく、公民館に出向き、活動趣旨、内容等を説明しないとチラシだけだと、活動内容等がわかりづらいと思います。
また、歴史サークルを中心的に活動している人に目星をつけて、説得するように登録をお願いしないとなかなか難しいのでは。一人が入ると、そのサークルの仲間などが芋づる式に入ってくれると思います。
- 事務局（石川） はい。各公民館へ出向き、歴史サークル等をはじめ、来館者用にチラシを配布済みですが、更に積極的に登録のお願いをしたいと思います。
興味のある方をご存知でしたら、ぜひ、ご紹介願います。
- 橘田委員長 事務局の方から、ボランティアに入っただけそうな方を紹介して欲しいとのことですが、各班で具体的にどのような作業等をボランティアの方にお願ひしたいのか、申し出てくれれば委員のみなさんもご紹介していただく方を探しやすいのではないのでしょうか。
- 事務局（能城課長） はい。例えば、自然班でしたら四季を通した植物の観察、写真撮影など、その地区の近くにお住まいのボランティアの方にお願ひするとか、民俗班であれば、昔の風習や民話などお年寄りからの聞き取り調査の補助、テープお起しなど、調査データなどをパソコンへ入力していただければ助かります。
- 野中委員 民俗班の方では、「うちの地区にはこんな伝統行事があるよ。」とか、情報提供してくれる方がいると助かります。
また、その行事の写真撮影もお願ひできるような方がいれば助かります。
- 橘田委員長 ボランティアについて、他にご質問、ご意見はございますか。
みなさんのご存知の方で、歴史等に興味がない方でもアマチュアカメラマン、パソコンでデータ入力ができる方など人材がいらっしゃればご紹介くださいとのことですねので、よろしくお願ひします。
それでは、次にその他で、班会議、調査研究活動の事務手続きについて事務局でご説明をお願ひします。

事務局 (石川より班会議、調査研究活動の事務手続きについて説明)

橘田委員長 班会議、調査研究活動の事務手続きについての説明がございました。
このことについて、何かご質問等ございますか。

無いようですので、今日の議事は以上で閉じさせていただきます。長時間のご協議誠にありがとうございました。

これをもちまして、平成21年度第3回木更津市史編集委員会を閉会いたします。

平成21年12月14日

議事録署名人 木更津市史編集委員会

委員長 橘田 昭雄